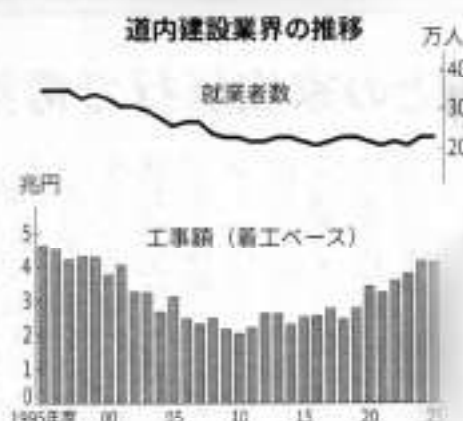


建設現場にロボ・AI

岩田地崎など、道内で進むDX

測量や安全確認を自動化
人材減でも需要に対応

道内建設業界の推移



(注)就業者数は年平均
(出所)国土交通省、北海道

こぶし建設のAI活用安全確認システムの画面



石狩、空知地域を中心に公共工事を請け負うこぶし建設(岩見沢市)はAIを活用した安全確認システム「AIマ(アイズ)」を導入する。重機の後部にカメラを取り付け、AIが死角にいる従業員の姿を認識し、運転席のモニターに表示できる仕組みだ。例えば緊急停車を告げる「両手」を上げた場合は赤色にモニターが光り、音で話す。

同技術は23年に国土交通省の公共工事向け技術データベース「新技術情報提供システム(NETIS)」にも登録された。1月からは機械士が安全確認したことを発光ダイオード(LED)の点灯で知らせるアンサーバック機能や現場での動きを動画で残すドライブレコーダー機能などを新たに搭載した限定モデルも投入した。

成るべき道